

小さな雑草、 ツメクサを調べよう！

ナデシコ科のツメクサ (*Sagina japonica*) という雑草をご存じでしょうか。漢字で「爪草」と書き、鳥の爪のように細く鋭い葉が特徴の一年草です。庭や植え込みの下など、身近な場所に生えているので、気付かずに踏んで歩いているかもしれません。ところが改めて調べてみると、それらの中にツメクサとよく似た外来種がいくつも紛れていることがわかりました。知らぬ間に増えつつある外来ツメクサ類とその見分け方をご紹介します。さて、皆さんのそばに咲くツメクサはどこの子でしょう？



ハマツメクサ
(*Sagina maxima*)

2008年頃から、住宅地の道ばたやアスファルトの隙間などで普通に見られるようになった国内外来種です。本来は海岸などに自生しますが、造成土などとともに持ち込まれて内陸部に広まったものと思われます。茎が太く、葉に厚みがあるほか、種子表面の突起は目立ちません。また、ロゼット状の根出葉で越冬します。



アライトツメクサ
(*Sagina procumbens*)

由木周辺での分布はごく限られており、出会う機会がもっとも少ない種類です。花びらを持たず、開花・結実時には丸みのある4枚の萼片が開いています。全体に毛が無いことや、花が単生すること、茎が短く横に這うことなどが見分けのポイントです。

イトツメクサ
(*Sagina apetala*)

由木周辺では2020年頃から急速に増加している華奢なツメクサ類です。アライトツメクサのように花びらが無く、開花・結実時には4枚の萼片が開いています。茎や花柄に腺毛があること、花が多数付いて大きな株になることなどが見分けのポイントです。



キヌイトツメクサ
(*Sagina decumbens*)

由木周辺では2021年に初めて確認されて以降、爆発的なスピードで分布を広げています。5枚の花びらと萼片を持つ点はツメクサと同様ですが、花は4月上旬に咲き、早い時期に結実します。茎葉は他種よりもさらに繊細です。茎の一部が濃紫色に色付き、やがて結実期には茎全体が赤く色付きます。結実時に閉じたままの萼片、萼片から突き出る果実、萼片の下にある小さな膨らみなども重要な特徴です。



ツメクサの仲間ではない“ツメクサ”たち



アズマツメクサ
(*Crassula aquatica*)

ツメクサに雰囲気似ることから名付けられましたが、全くの別物。ベンケイソウ科の希少な水田雑草です。



コメツブツメクサ
(*Trifolium dubium*)

マメ科にも“ツメクサ”の名を持つ一群があります。輸入陶器などを守る緩衝材として箱に詰めたことに由来します。



◀ **キヌイトツメクサ(結実期)**



▲ **舗装の隙間に生えるツメクサ類**

(写真はキヌイトツメクサ)